

大阪大谷大学

令和五年度 入学試験問題（公募制推薦・前期B日程）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は、全部で九ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

□ 次の小説を読んで、後の間に答えよ。なお、主人公はフランス人女性で、寄宿学校に居た頃を思い出している。また、設問に指示された字数は句読点等を含む。

① わたしは叱られるのが好きでした。叱られるために、禁じられていることをわざとよくやっと思ひます。いいえ、叱られても平気だったわけじゃありません。それどころか、はじめて叱られたときは死ぬほど辛かった。夕食のときでした。わたしはおギョウギのことで先生に注意されたんです。それがとっても誇らしく思ひました。b ジョウダンだと思ひふりをすれば、叱られた辛さがやわらげられると思ひたんです。わたしは微笑みしました。その先生にこう言おうとしたみたいに——「ええ、たいしたことじゃありません、先生は良いお方ですから、わたしを辛い目にあわせようなんて、なさつたはずはありませんもの！」

その女は近眼でした。わたしの微笑みがなにを意味しているか見てとれなかつたのはそのせいかもしれませぬ。トツゼン彼女はわたしにオソいかりました。思ひつきり顔をひきつらせて。わたしをナマイキ呼ばわりして、こういう態度はがまんできないつて金切り声で叫んだのです。そのときわたしは十二歳。でも彼女の苛立ちぶりは、同じ年頃の女を相手にしているような感じでした。食堂じゆう静まり返りました。隅に立っていなさいと彼女は言ひ、わたしは食事が終わるまでそこに立っていました。頭をつぺんから爪先までぶるぶるふるえながら。唇をこわばらせて涙を呑み込みながら一晩じゆう泣きました。泣きやんで考えたのは、
② 先生の不当さのことでした。その思ひ出を力いっばいしぼり上げると、また涙が出てきました。しまいにこう考えながらわざと泣きました——「明日わたしの哀れな目を見たら可哀相になつて、先生はきつと後悔する。そうしたらなにかも許してあげて、先生が大好きになるんだわ」　するともう、先生が好きになつたように思ひました。わたしたちはきつと中庭をいっしよに散歩する、先生はとても親しいお友達になる……　でも彼女は後悔なんかしませんでした。ですからそのあとは、あからさまに先生をからかつて楽しみました。

別の日のこと、偶然にも書取りがとてもよくできたことがありました。フランス語の先生は、ズルをして書き写したんでしようと言ひ、そうじゃありませんといくら言つても信じてくれませんでした。長いあいだ悲しみの味を味わいました。その悲しみを胸いっばいに抱きしめました。③ 二日間お相手をしてくれたその悲しみが消えてしまつたとき、そんなに早く慰められたことが悲しくなりました。でも、先生の不当さを忘れることはどうしてもできませんでした。二十年たつてどこかであの女に出会つたら「あの書取りのことですけれど、あれは写したんじゃないやありません」と言つてやつただろうと思ひます。でも、その歳月が、
④ 相手に忌避できない証人になつてくれるはずなのに、その二十年が、まるで見知らぬ国の巨大な山脈のように、真つ黒な恐ろしい山脈のよう

に、わたしの頭上に聳え立っているように思えるのでした。

苦しみがつづいていっているあいだ、ずっとこう考えていました——こんなことなんでもない。ほかの苦しみが消え去ったように、これだつていつかは消えるはずだわ。いまこの瞬間にも、わたしよりもつとつと不幸な人たちがいるんだし、だいいちわたしだつていつかは死ぬんだから……

A

わたしは、じつところえた涙の味が好きでした。仮面のような顔の裏側を通つて、目から心臓に落ちていくように思えるあの涙の味が好きでした。宝物のようにそれを拾い集めていました。一日の旅の途中で出会った泉のようでした。叱られるのが好きだったのはそのせいです。

(ラルボー「ローズ・ルルダン」岩崎力訳による)

問一 二重傍線部 a と e のカタカナを漢字に直せ。

問二 この文章を前半と後半で分けたい。後半の始まりはどこが適当か。その段落の最初の五字を抜き出して答えよ。

問三 傍線部①「わたしは叱られるのが好きでした」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 周囲の人たちの注目を集めることができるから。
- イ ささやかな復讐^{ふくしゅう}を考える楽しみを得られるから。
- ウ 強がって言ってるだけで、本当は好きではない。
- エ 悲しみに耐えているときの感覚を味わえるから。

問四 傍線部②「先生の不当さ」とはどのようなことか。「くこと」につながる形で、本文中から三十字以内で抜き出して答えよ。

問五 傍線部③「二日間お相手をしてくれたその悲しみが消えてしまったとき、そんなに早く慰められたことが悲しくなりました」の説明として、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア もっと長く悲しんでいたかったのに、たった二日で済んでしまい、物足りない。
- イ 深い悲しみだと思っていたのに、実際は軽かったことがわかり、落胆している。
- ウ 二十年間悲しみ続けるはずだったのに、あっけなく途絶えてしまい、失望した。
- エ 悲しみが消えたら、自分の本当の気持ちがわからなくなり、途方に暮れている。

問六 傍線部④「その年月が、相手には忌避できない証人になってくれる」とはどういうことか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 無実の主人公を二十年も疑ってしまったという後悔の念が相手に湧けば、相手の表情にそれが現れて、動揺したことを隠せなくなる。
- イ 主人公を二十年も苦しめていたということを相手に認めさせれば、主人公に謝罪することを避けられないようにすることができる。
- ウ 二十年も経っているのにまだ無実を訴えるということは、主人公の主張が真実であるということを、相手が否定できない証拠になる。
- エ 主人公が二十年も思い続けてきたという執念を突きつけられて、相手は嫌々ながらも、当時の状況を再検討せざるを得なくなる。

問七 空欄 A に当てはまる最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア だから イ でも ウ そして エ また

問八 傍線部⑤「仮面のような顔の裏側を通って、目から心臓に落ちていくように思えるあの涙の味」とあるが、どのような悲しみなのか。四十字以内で説明せよ。

問九 本文最後の段落では「くのような」「くのように」という表現が多用されている。この文章技法は何か。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 倒置法 エ 擬人法

問十 作者がこの小説を執筆中の一九一〇年に、日本では同人誌「白樺」が創刊され、文壇に新風をもたらした。選択肢ア～エの中から、「白樺」の同人作家を一人選び、記号で答えよ。

ア 夏目漱石 イ 芥川龍之介 ウ 志賀直哉 エ 太宰治

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ。また、設問に字数制限がある場合、句読点・符号等はすべて字数に含む。

『ネバーエンディング・ストーリー』という映画があります。

少年バスチアンがはじめつ子に追いかけて逃げ込んだ古本屋。そこで見つけた、ほこりをかぶった謎めいた一冊の本『ネバーエンディング・ストーリー』に心惹かれた少年は、その本を学校に持ち込み、授業をサボって屋根裏部屋で読みふけります。その本のなかでは、『ファンタージェン（＝ファンタジー世界）』の危機が語られます。姿なき『虚無』が、『ファンタージェン』を次第に浸食しているというのです。若き勇者アトレイユは『ファンタージェン』の王である『おさな心の君』の命により、幸運の龍ファルコンらの助けを借りながら、国を救う者を探す旅に出る……。

というような物語です。有名な映画ですから、見た人も多いことでしょう。へ i へ まだの人がいたら、たいていのレンタルビデオ店には必ずある作品ですから、是非ご覧になるといいと思います。

以前、共通科目の「古典文学入門」「日本文学入門」等を担当したとき、私は、最初か次の時間にこの映画を教室で見てもらい、そのあとで、①「この映画はどういう点で「古典文学入門」の最初に見るのにふさわしいでしょうか？」というテーマで簡単な感想を書いてもらうのが常でした。単に映画の感想を書いて下さい、というだけですと、「とてもおもしろかった」とか、「アトレイユがステキだ」とか「できることならファルコンに乗ってみたい」などというようなのがどうしてもまじってくるので、そういうのをハイジヨ^aするために、自然にこういうふうに固まってきたものです。

しかし、そういうふうにテーマを限定して聞いてみても、かえってくる感想の多くは、「想像力は文学にとって大切なものだということをわかってほしいから」「いつまでも少年のような心を大切にしないといけないから」というふうな内容の、少年バスチアンが読んでいる物語のなかから教訓を見つけてくるような感じのものが大部分です。へ ii へ、想像力は大切です。この映画に出てくる岩を食べるロックバイターや空を飛ぶファルコンやエタイ^bの知れない予言者の亀モーラなんていう不思議な存在を生み出したのはすべて想像力によるものなのです。ただし、②それだけにとどまるのであれば、この物語は『ファンタージェン』のなかだけですませておけばいいはず。しかし、この映画の作者はそうはしませんでした。『ファンタージェン』に危機が迫っていた、というふうにいきなり始まるのではなく、いじめられっ子バスチアンが『ネバーエンディング・ストーリー』という本を入手し、それを読み始めるまでのケイイ^cを丁寧^cに提示したのちに、その本の中の世界がはじまる、という

A

とを選んだのです。へ iii へ、さらに念が入っていることに、勇士アトレイユが『ファンタージェン』を救う旅を続けている合

間合間に、学校の屋根裏部屋でこの物語を読むことに熱中し我を忘れているバスチアンの姿を繰り返し繰り返し挿入していくので

す。
この二重構造の意味は、勇士アトレイユが最後にたどりついた、この国を救うものを映し出す鏡のなかにバスチアンの姿があらわれたときはじめて示されるわけですが、よりメリヨウな^dかたちで語られるのは、命令を果せないまま傷ついた身体で帰ってきたアトレイユを迎える「おさな心の君」の次のような言葉です。

「いいえあなたはすでにこの国の危機を救ってくれる人をもうすでに見つけてくれましたよ。ほら、その人はそこにいるではありませんか。」

この言葉とともに、バスチアンは「ファンタージェン」の世界に招き入れられ、アトレイユにかわってファルコンに乗り、「ファンタージェン」の再生を果したのち、自分の国に帰ってきて彼をいじめた少年たちに仕返しをしていくわけです。いかにもファンターらしい結末ですが、ここでもなによりも注意してほしいのは、物語を読み続ける少年バスチアンと「ファンタージェン」との関係です。「ファンタージェン」を存在させているのは、少年バスチアンの「読む」という行為そのものである、という事実です。この映画の基本構造がそこに置かれていることをぜひとも見逃してほしくはないのです。

へ iv ）、この構造はそのまま、文学作品における作品と読者の関係に置き換えることができます。すなわち、作品は読者が読まない限りは単なる紙とインクのかたまりにすぎない、あるいは、「読む」ことを通してはじめて作品は生命を与えられる等々といった、わかりきっているけれどもふだんはあまり意識されない事実です。

文学を研究するにあたっては、言葉の勉強をはじめとして、その周辺のさまざまの知識を要求されます。そして、そういう知識が増えていくのと比例するように、作家とか作品というものの存在は自明のものようになっていきます。『源氏物語』について、原文はほんのわずかしか読んだことにはないのに、登場人物やおおよそそのあらすじは知っている、というようなことはしばしば経験することではないでしょうか。しかし、我々にとって、ある作品が存在しはじめるときというのは、その作品を自分で読み終えたとき以外にはないのです。どんなに立派に解説ができて、その作品を読まない限りは、あなたにとってあるいは私にとってそれは「存在」している、とはいえないのです。

文学作品を「読む」ということは、実はかなり面倒なものです。古典文学や外国文学だけでなく、現代日本の作品でも、本当の意味で「読む」となると実はかなり手間がかかるもので、新聞や週刊誌を読むようなわけにはいきません。へ v ）、ついつい気のきいた解説や口当たりのいいヒビョウ^eなどを読んだだけで、その作品について知った風な口をきいてしまう、ということを我

々はしてしまいがちです。それだけです。でも、とりあえずは「文学」がわかっている、というふうな顔をすることはできません。しかし、どんなにつたない解説しかできなくとも、作品を読むということをやまず「B」せよ、それがなにも勝るものである、というなかなか辛口のメッセージを、このとても口あたりのいいフアンタジー映画は我々に教えていると私は思うのです。

そして、このことは、文学を研究するためにはさておいても忘れてならないことではないでしょうか。文学を研究するということとは、このわかりきった事実をあらためてとらえかえし、^③作品を「読む」という行為を自覚的に問い直していく作業に他ならないからです。

(木越治「文学を「研究する」ということ」による)

問一 二重傍線部 a く e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 (i) () (v) に入る最も適当な語句を、次のアくオの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ (同じ記号は二度使えない)。

ア だから イ そして ウ もちろん エ しかも オ もし

問三 傍線部 X 「すなわち」を別の語に置き換える時、最も適当なものを、次のアくエの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア つまり イ しかし ウ 一方で エ 結局は

問四 空欄 A に入る最も適当な語を、本文中から四文字で抜き出して答えよ。

問五 空欄 B に入る最も適当な語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 想像 イ 経験 ウ 理解 エ 勉強

問六 傍線部①「この映画はどのような点で「古典文学入門」の最初に見るのにふさわしいでしょうか？」とあるが、その回答として適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア バスチアンが本を読むことで「ファンタージェン」が存在している点。
イ アトレイユのかわりにバスチアンが「ファンタージェン」の世界で活躍する点。
ウ 豊かな想像力によって岩を食べるロックバイターや空を飛ぶファルコンといった不思議な存在が出てくる点。
エ 「おさな心の君」が「ファンタージェン」を救うものを映し出す鏡の中にバスチアンを見つけた点。

問七 傍線部②「それ」の指し示す内容を、本文中から二十文字以上三十文字以内で抜き出して答えよ。

問八 傍線部③「作品を「読む」という行為を自覚的に問い直していく作業」とは反対の読み方を、本文中の言葉を用いて五十文字以内で答えよ。

問九 次のア～エについて、この文章中に書かれている内容に合っているものには○で、合っていないものには×で、それぞれ答えよ。

- ア 文学作品を研究するためには、言葉の勉強やその周辺の様々な知識を得ることだけが要求される。
- イ 文学作品を読むことは、面倒であり、手間がかかるから、我々は既存の解説や批評で済まそうとしてしまう。
- ウ 文学作品を読むことは、その作品を批評したり解説することよりも、勝れた行為である。
- エ 文学作品を読むときに必要なのは、作品世界を想像する力であり、作品を批判する力ではない。